



小中一貫教育導入に向けての具体の検討内容

2023年2月14日

寒川町立小・中学校適正化等検討委員会

①小中一貫教育の課題

文部科学省「小中一貫教育等の実態調査」結果では、小中一貫教育の課題として次の4点が現場の教職員の声として多くあげられています。

- 小中の教職員間での打合わせ時間の確保
- 小中合同の研修時間の確保
- 児童生徒間の交流を図る際の移動手段・移動時間の確保
- 教職員の負担感・多忙感の解消

②小中一貫教育の導入・推進の課題

①市町村及び学校における教育課題の整理と分析

小中一貫教育導入の必要性、効果、導入後の課題の見極め → 導入目的の明確化

②小中一貫教育の導入の範囲

部分的導入／全市的導入 先行的導入／一斉導入 効率・効果／機会均等

③目指す小中一貫教育の段階

施設一体型／隣接型／分離型 「学年段階の区分」の設定
義務教育学校／小中一貫型小・中学校／制度によらない取組
取組の段階 I 教職員の交流／II 日常的な乗り入れ授業の実施／
III 接続する区切りにおける取組の深化

目標設定

④支援の検討

県教委／市町村教委 人／施設／経費／運営／研修 保護者／地域

⑤受け入れ態勢・推進体制

教職員、保護者、地域住民、首長の意見や理解 研究・推進体制の構築
(協働性)

検証(成果と課題、外部からの評価、持続可能な取組に)

推進の条件

※「第6回寒川町立小・中学校適正化等検討委員会資料(屋敷副委員長作成資料)」より抜粋

小中一貫教育の導入・推進にあたっては、上記のとおり、「導入目的の明確化」や、「目標設定」、「推進の条件」が重要であることから、教育委員会の主導のもと、各校に対する十分なバックアップをしていくことが不可欠です。

③小中一貫教育の取り組み段階

■ 第Ⅰの段階：教職員交流の実施

授業参観・授業研究協議、児童生徒の情報交換、指導についての相談、小中合同行事の企画・運営等

■ 第Ⅱの段階：日常的な乗り入れ授業の実施

各小学校への毎週の乗り入れ授業、小学校における教科担任制の実施

■ 第Ⅲの段階：接続する区切りにおける一体性の深化

小学校段階と中学校段階の区切り(小5、6と中1)における先進的な取組(区切りの共通性や一体性を重視、50分授業、定期試験、5段階評価、部活等)

- 組織の一体化(校長、校務分掌、兼務発令)が進むと取組も進む。
- Ⅲの学校は、いずれも「4-3-2」。しかし、「学年段階の区切り」にとらわれない取組の工夫も見られる。
- 一方、新たなギャップ(小5、中2)等の指摘もある。「学年段階の区切り」をどのように運営するかは、今後検討を深めるべき重要な課題である。

※「第6回寒川町立小・中学校適正化等検討委員会資料(屋敷副委員長作成資料)」より抜粋

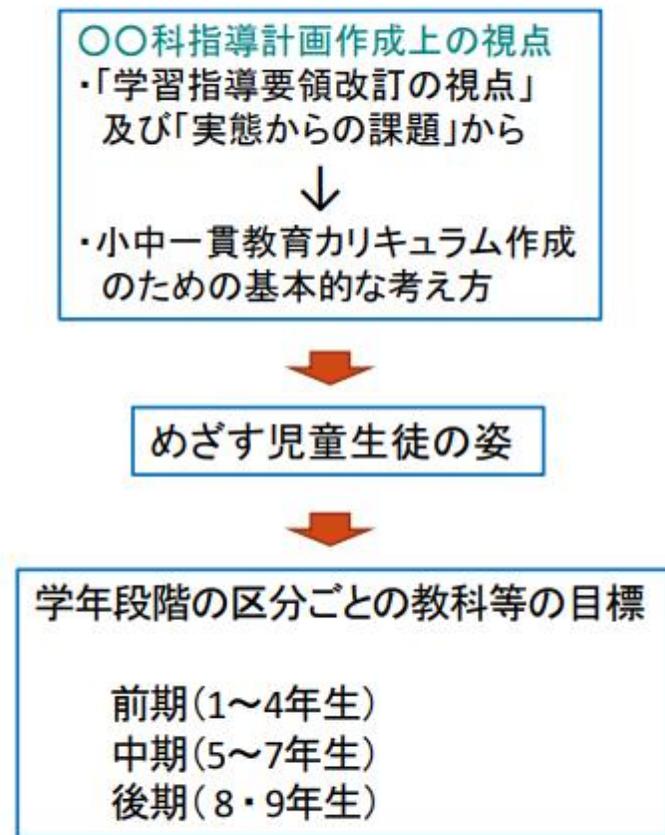
小中一貫教育の導入にあたっては、教育現場を担う教職員の十分な理解と納得感が不可欠であり、拙速な導入とならないよう、導入までの各取組段階とその内容を明確にすることが重要です。

④カリキュラム作成例と学年段階の区分

小中一貫教育を行う9年間を学年段階で認識の共有をしている一例

図 国語科指導計画の作成(呉中央学園)

呉市におけるカリキュラム作成の例



出典:平成24年度版「呉中央学園小中一貫教育カリキュラム」p.5

各期の必要な指導の明確化、指導の重点・工夫

<p>学習指導要領改訂の視点から 国語科の目標は、国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、豊かにし、国語に対する関心・認識を深め国語を尊重する態度を育てることである。</p> <p>実態からの課題 自分の考えを持ち、論理的に表現する力が不足している。自分の考えを伝え、かかわり合う中で、自分の考えを深めることができるようにするには、発達段階に応じた系統的な言語力の育成が必要である。</p>	<p>小中一貫教育カリキュラム作成のための基本的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 発達段階に応じた指導内容の重点化 前期は「繰り返し学習し、正しく伝え合うための言語の習得期」と捉え、中期は「論理的・抽象的な言語の活用期」と捉え、後期は「個性を伸長するとともに、社会性を備えた言語の育成期」と捉え、発達段階に応じた指導内容を工夫する。 ○ 言語活動の充実 9年間を見通し、系統的な「ことばの時間」を展開すること。つきたい力に応じた言語活動を充実させることを通して、言語に関する知識・技能を身に付させる。 ○ 読書指導と辞典の日常的利用 9年間を通して読書に親しむ中で、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり、自分の論旨を展開するための豊富な言語を獲得したりすることを旨とする。 	
<p>めざす児童生徒の姿</p>		
<p>・自分の思い・願い・考えを確かにもち、自分のことばで的確に伝え合うことができる児童生徒 ・人とかかわり合う中で自分の考えを深め、さらに自己を高めていく児童生徒</p>		
<p>区分ごとの教科等の目標</p>		
<p style="text-align: center;">前期</p> <p>繰り返し学習し、正しく伝え合うための言語の習得期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手や目的に応じ、筋道を立てて話す能力、話の中心に気をつけて聞く能力、進行に沿って話し合う能力を身に付させるとともに、工夫しながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。 ・相手や目的に応じ、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付させるとともに、工夫しながら書くこととする態度を育てる。 ・目的に応じ、内容の中心を捉えたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付させるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。 	<p style="text-align: center;">中期</p> <p>論理的・抽象的な言語の活用期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や場面に応じ、構成を工夫して話す能力、話し手の意図を考えながら聞く能力、話題や方向をとらえて話し合う能力を身に付させるとともに、話したり聞いたりして考えをまとめようとする態度を育てる。 ・目的や意図に応じ、構成を考えて的確に書く能力を身に付させるとともに、進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度を育てる。 ・目的や意図に応じ、様々な本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえる能力を身に付させるとともに、読書を通じて、ものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。 	<p style="text-align: center;">後期</p> <p>個性を伸長するとともに社会性を備えた言語の育成期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や場面に応じ、相手や場に応じて話す能力、表現の工夫を評価して聞く能力、課題の解決に向けて話し合う能力を身に付させるとともに、話したり聞いたりして考えを深めようとする態度を育てる。 ・目的や意図に応じ、論理の展開を工夫して書く能力を身に付させるとともに、文章を書いて考えを深めようとする態度を育てる。 ・目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む能力を身に付させるとともに、読書を通じて自己を向上させようとする態度を育てる。

※「第6回寒川町立小・中学校適正化等検討委員会資料（屋敷副委員長作成資料）」より抜粋